

1

特集

# 令和5年度 埼玉大学 卒業式・大学院修了式を挙行

Vol. 39  
May  
2024

3月25日（月）、令和5年度埼玉大学卒業式・大学院修了式がさいたまスーパーアリーナで盛大に行われました。この日、1,521名の学部生、556名の大学院博士前期課程学生、36名の博士後期課程学生、総勢2,113名が埼玉大学（以下、「本学」という）から新たな一歩を踏み出しました。

坂井貴文学長は式辞の中で「失敗に対する新しい考え方を持ってほしい」とし、「失敗は成長の機会であり、他者との協働を通じて力に変えることができる。一人ひとりが社会の変革を促す役割を果たしてほしい」とエールを送りました。

さらに今年度は本学経済学部の卒業生である安川愛真氏から後輩に向け激励のメッセージが贈られ、本学を巣立った2,113名の門出を祝いました。



## 式次第

- 一、開式の辞
- 一、学位記授与
- 一、学長式辞
- 一、卒業生代表挨拶
- 一、修了生代表挨拶
- 一、理事等紹介
- 一、学部長等祝辞
- 一、梶田隆章賞授与
- 一、先輩卒業生からのエール
- 一、メッセージ披露
- 一、閉式の辞



## 令和5年度 埼玉大学卒業式・大学院修了式



▲式辞を述べる坂井学長



▲安川愛真氏によるメッセージ



## 2 学生 令和5年度「梶田隆章賞」に菊地さんと本間さん

令和5年度「梶田隆章賞」に、理学部数学科 菊地優汰さんと工学部情報工学科 本間さくらさんが選ばれ、3月25日(月)の卒業式において授与式が行われました。本賞は2015年にノーベル物理学賞を受賞された本学理学部卒業の梶田隆章先生の栄誉を称え、若手研究者の育成を目的として2017年度に創設されたもので、学業において優秀な成績を収め、研究者への高い志を有する大学院進学予定の卒業生を表彰するものです。

オンラインマガジン「SAIDAI CONCIERGE」では、菊地さんと本間さんにインタビューを行い、受賞の感想や今後の目標についてお話を伺いました。是非ご覧ください！(近日中に公開予定)

オンラインマガジン「SAIDAI CONCIERGE」はこちら→



▲菊地さん(左)と本間さん(右)

## 3 学生 令和5年度3月期学生表彰を挙行—優れた学術研究・課外活動の成果を称えて—

3月8日(金)、令和5年度3月期学生表彰式を挙行了しました。

この表彰は、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生を表彰する制度です。

今回は、個人表彰20名および団体表彰4団体に対して坂井学長から表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。



▲坂井学長を囲んで受賞者との記念撮影

## 4 国際 氷川の杜ワークショップを実施しました

例年、本学が事務局を務める埼玉県留学生交流推進協議会は、埼玉県内の大学キャンパスに通う学生を対象とした地域交流イベントをグローバル人材育成センター(GGS)と共同で開催しています。

今年度は、中島記念国際交流財団助成を受け、「3 days workshop at Hikawa no Mori」を実施しました。24か国40名の学生が参加し、オンライン事前研修と2日間の体験学習を通して、氷川の杜について学び、地域の方々と交流しました。



▲事前オンライン研修



▲ガイドさんの解説を聞きながら参道歩き



▲氷川参道ボランティア清掃に参加



▲能楽を体験



▲苔玉作りに挑戦

## 5 研究 喫食中の顔表情からの感情推定(大学院理工学研究科 綿貫啓一教授 共同研究)

森永製菓株式会社と本学は、お菓子ならではの、おいしさや楽しさといった情緒的価値を様々な手法で解明し、付加価値の高い商品の開発・提供につなげていく取組みを行っています。

“みんなが笑顔になれるアイス”を目指し、「パリパリッ」の食感やおいしさを長年にわたり追求している「チョコモナカジャンボ」について、喫食中の表情から感情を推定することができれば、チョコモナカジャンボの魅力を探り深掘りしてさらなる改良につなげられるのではないかと、という仮説のもと研究を行いました。喫食中の顔表情をAI解析し、感情を推定した結果、喫食中はポジティブな感情になっている可能性が示唆されました。本研究成果は、3月7日(木)・8日(金)に開催された第19回日本感性工学会春季大会で発表されました。



▲パリパリッのチョコモナカジャンボはポジティブ感情をもたらす可能性！

## 埼玉大学・さいたま市・ジーピックの3者で 「見沼んぼグリーンカーボン推進事業に関する協定」を締結しました

本学は、見沼んぼのグリーンインフラを活用するグリーンカーボン推進事業に関する協定をさいたま市及びジーピック合同会社と2月9日(金)付で締結し、2月28日(水)さいたま市役所で記者発表しました。

この事業では、本学とジーピック合同会社が協力し、モリンガの栽培による二酸化炭素の吸収と固定量の定量化、そして成長モデルの開発を行います。この実証試験は、脱炭素化や地域経済の活性化、有休農地の活用など様々なメリットを期待して行われます。

モリンガは、インド原産のわさび科の樹木で二酸化炭素の吸収率が非常に高く、見沼んぼで昨年収穫した一本の木で3kgほどの二酸化炭素を吸収していました。また、その栄養素の豊富さから「ミラクルツリー」とも呼ばれ、ヒトに必要な栄養素をバランスよく含んでいます。そのため、本活動に取り組む埼玉大学産学官連携協議会の埼玉グリーンインフラSDGs研究会参加企業の皆さんは、サプリメントやパスタ、クッキー、非常食などの商品開発に取り組んでいます。



(左から)ジーピック合同会社 松永栄一氏、さいたま市 清水勇人市長、  
本学大学院理工学研究科 藤野毅教授、  
本学オープンイノベーションセンター 大久保俊彦産学官連携コーディネーター

## 埼玉りそな銀行による学生向け金融セミナーを開催

1月19日(金)、埼玉りそな銀行経営管理部サステナビリティ推進室をお招きし、学生向け金融セミナーを開催しました。

政府がスローガンとして掲げる「貯蓄から投資へ」の流れの中、「新NISA」がスタートし、学生の資産運用への興味・関心が高まっています。また、成年年齢の引き下げもあり、学生が金融犯罪やトラブルに巻き込まれるケースも懸念されます。本セミナーは学生の皆さんに資産運用・金融トラブルについての「正しい知識」の習得を目的として開催されました。

セミナーでは、「1.なぜ今、投資が必要なのか」「2.投資・資産運用とは?」「3.税制優遇商品のご紹介(NISA)」「4.金融犯罪トラブル事例」の4つのテーマに沿って、講師より日本の資産運用の現状や、投資のリスクとリターン等についてわかりやすくお話をいただき、学生は興味深く聴き入っていました。

セミナー終了後のアンケートでは、「投資に興味があり、知ることができて良かった」「今回のセミナーをきっかけに、自分で調べて自分の状況にあった運用を考えたい」などの感想が寄せられました。

本セミナーは先着100名で募集を行ったところ、募集の初日で定員を上回る申し込みがあり、学生の関心の高さがうかがえるセミナーとなりました。



▲セミナーの様子



▲学生から多くの質問が寄せられました

## 「埼玉大学全学舎ギャラリー化計画」感謝状贈呈式を執り行いました

「無味乾燥な現在の学舎環境を、アート力でポジティブな創造的空間に変えたい。そして、学生や教員の創造的ポテンシャルを開花させ、快活に学びや教育研究に向き合うことができる学舎にしたい」という本学教育学部芸術専修画工作・美術分野 小澤基弘教授の発案により、本学卒業生の絵画作品を学内に展示する「埼玉大学全学舎ギャラリー化計画」が昨年度から始まっています。

2月22日(木)、本学図書館において本計画に絵画を寄贈いただいた方々への感謝状贈呈式を執り行いました。寄贈いただいた方々の代表として、本学卒業後画家として活躍されている池田竜太郎氏、池田賢子氏にお越しいただきました。

贈呈式では、坂井学長から、ご本人が制作された絵画作品の前にて感謝状が贈呈されました。感謝状贈呈の後、両氏からは母校に絵画作品が飾られることについて喜びの言葉をいただきました。

寄贈いただいた絵画作品によるアート力によって、学生や教職員の創造性を引き出し、活気ある学びと教育研究が行える場を提供できるよう、今後も本計画を進めていきます。



▲「緑響、湖畔」池田 賢子氏



▲「夏昼白」池田 竜太郎氏



▲(左から)池田竜太郎氏、池田賢子氏、坂井学長、小澤教授、木崎前副学長(現理事・事務局長)

9  
その他

# 教育学部附属特別支援学校の生徒から学長へ 来客用ノベルティが納品されました

2月13日（火）、教育学部附属特別支援学校高等部の生徒らが本学を訪れ、作業学習の授業で製作したドリップパックコーヒー、スウェーデン刺繍のコースター、コーヒー豆のサシェ（消臭袋）、くるみボタンのマグネットやブローチといった作業製品を納品しました。

本学では今年度から、高等部の生徒が学習で製作した製品を大学の来訪者へお渡しするノベルティとして採用しています。生徒たちは、これまでも坂井学長や役員とのオンライン会議で、製品のプレゼンテーションを行い、希望を聞いて製品づくりに生かすなど、発注段階から連携して製作を進めてきました。

第2回の納品となったこの日は、珈琲班が作ったドリップパックで淹れたコーヒーを、手工芸班が作ったコースターに乗せて坂井学長ら役員に提供。坂井学長からは、生徒たちに「第1回の納品分も丁寧に作られていて感心したが、さらにデザインなどグレードアップしているように思う。ノベルティ作りを通して、どうしたら上手くいくか考えて工夫すること、友達と協力して作り上げることを大切にしてほしい」というお話がありました。



▲今回納品されたノベルティの一例

## 埼玉大学基金室より 埼玉大学基金のご案内

埼玉大学基金は平成25年11月の設立以来、皆さまからのご理解とあたたかいご支援をいただいております。現在、下図のとおり大学の機能強化、学生支援の充実を目的とすご寄附を幅広く受け入れております。

ご寄附の方法として、金融機関からの振込・払込のほか、指定の月に決済が行われる継続寄附も可能なクレジットカード決済をご用意しております。

また、不要となった本やDVD等をお送りいただくことで、その査定額をご寄附いただけるリサイクル募金「きしゃぼん」を導入しております。

今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。



詳しくはホームページをご覧ください

<https://www.saitama-u.ac.jp/funds/>

埼玉大学基金 検索

<h3>埼玉大みらい基金</h3> <p><b>教育・研究に関する支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムの整備充実等</li> <li>・国際的研究力の向上等</li> </ul> <p><b>キャンパスの環境整備に関する支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心・快適なキャンパス整備等</li> </ul> <p><b>国際交流事業への支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外留学の促進等</li> <li>・外国人留学生受入促進等</li> </ul> <p><b>社会連携事業への支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・社会との連携充実等</li> <li>・企業との連携強化等</li> <li>・学生広報サポーター活動支援</li> </ul> <p><b>学生への奨励事業に関する支援</b></p> <p>特に優秀な学生への給付型奨励金制度の創設</p>	<h3>冠奨学金基金</h3> <p><b>寄附者の方の想いに沿った奨学金制度を創設</b></p> <p>一定額以上（30万円以上）を寄附した寄附者（法人・個人）が、奨学金名称、奨学金の額及び対象学部等を設定いただけます。</p>	<h3>特定基金</h3> <p>埼玉大学修学サポート基金</p> <p><b>経済的理由により修学に困難がある学生等の支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業料・入学料減免事業</li> <li>・奨学金事業</li> <li>・海外留学支援事業</li> <li>・TA・RA事業</li> </ul>
◆埼玉大学基金へのご寄附の累計額		
令和6年 3月末の状況		699,226,885円
うちリサイクル募金「きしゃぼん」によるご寄附		1,537,381円

お問い合わせ先 埼玉大学基金室（総務部広報渉外課内） ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp

